

Hello! FUJISEI

No.30

不況の影響を受けて企業の採用状況が悪化し、来春の大卒の就職内定率の厳しさが伝えられています。しかし、文部科学省の学校基本調査によると、平成22年3月時点での大学・短期大学への進学率は56.8%で過去最高を更新しており、「大学志向」はさらに強まっています。

子供の思いはかなえてあげたいものですが、そのための費用は思っている以上に重く家計にのしかかってきます。

● 滑り止め受験の納付金も…

日本政策金融公庫の「教育費負担の実態調査（有効回答数5,409世帯）」によると、高校入学から大学卒業までにかかる費用は、子供1人当たり1,059.8万円となっています。

入学者1人当たりの入学費用は、高校で51.9万円、高専・専修・各種学校が86.1万円、短大が88.2万円、大学が97.4万円となっています。私立大学の入学費用は理系で104.0万円、文系で98.1万円、国公立大学は82.6万円で、国公立大学

高校入学から大学卒業まで1,000万円超！

教育費以外の支出を削って費用を捻出？

へ入学した場合は、入学しなかった学校（私立大学等）への納付金（13.2万円）の負担が大きくなっています。

一方、在学中の子供1人にかかる1年間の在学費用は、高校が99.5万円、高専・専修・各種学校が146.6万円、短大が143.0万円、大学が153.0万円でした。私立大学の在学費用は理系で179.2万円、文系で151.6万円と、理系で国公立大学（110.7万円）のおよそ1.6倍、文系でおよそ1.4倍となっています。

その結果、高校入学から大学卒業までにかかる費用は、子供1人当

り1,059.8万円でした。

高校卒業後の入学先別にみると、私立大学に入学した場合の累計金額は、理系で1,171.1万円、文系で1,054.8万円であるのに対し、国公立大学では875.8万円でした。

自宅外通学の場合は、仕送りの額も気になる場所です。仕送り額の年間平均は101.8万円（月額8.5万円）となっています。

教育費は、旅行・レジャー費や外食費などを削り、節約することで捻出しているようです。やはり、早めの準備をしておきたいものですね。

高校卒業後の入学先別にみた卒業までに必要な費用

（子供1人当たりの費用（年間平均額の累計））



日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査（国の教育ローン利用勤務者世帯）」（平成22年7月実施）

（注）高校の費用は、国公立・私立を合わせた全体の平均。入学費用を含む。

高専・専修・各種学校、私立短大は、修業年限を2年として算出している。